

2025 年度関東支部活動報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会

開 催 日：2025 年 8 月 24 日（日） 13:00～15:00

会 場：オンライン開催

参加人数：26 名（会員 18 名、一般 5 名、関係者 3 名）

テーマ：「自主夜間中学」について

関東支部では8月24日（日）にオンライン（Zoom）で支部活動を行いました。支部活動は第1部と第2部で構成し、第1部は講演、第2部参加者同士の意見交換の場を設けました。

第1部では、講師に田巻松雄氏（宇都宮大学名誉教授）をお迎えし、「自主夜間中学は何を目指すのか」というタイトルでご講演いただきました。まず、田巻氏による「自主夜間中学」と「公立夜間中学」との異同、歴史について詳しい説明がありました。その説明の中で、はじめての自主夜間中学の記録である岩井好子著『うどん学校』（1970年代奈良）、山田洋次監督の映画「学校」で主人公のモデルとなった見城慶和氏が作られた教材についても紹介がありました。田巻氏は、夜間中学のルーツから夜間中学の日本語教育や教材を振り返ることは、今後の日本語教育にも必要であると述べていました。さらに、田巻氏が代表を務める「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の活動として、「とちぎ蔵の街自主夜間中学」（2024年）開校の経緯、活動の様子をご紹介くださいました。こちらの理念、特徴は「誰でも」という発想であること、学習者と応援者が共に学ぶことであり、目標は「なくてはならない場」として存在し続け、作っていくことであるとご説明くださいました。

第2部では、田巻氏に加え2名の講師、佐々木一隆氏（宇都宮大学名誉教授）、鄭安君氏（千葉大学特任研究員）にご登場いただき、約40分間の意見交換の場を設けました。3つのテーマ、「自主夜間中学と外国人学習者」（田巻氏）、「自主夜間中学の意義、楽しさ、課題：応援スタッフとコーディネーターの経験から」（佐々木氏）、「子どもの学習者との学び合いについて」（鄭氏）を設定し、参加者が関心のあるテーマを選び、それぞれブレイクアウトルームに入ってくださいました。各ルームでは講師が冒頭15分程度お話をしてくださり、その後は講師、参加者を交えて意見交換や質疑応答が行われました。今回は参加人数があまり多くなかったのですが、少人数という利点を活かし、個人の意見や見解を深く詳しく話し合うことができました。

事後アンケートには、次のようなコメントをいただきました。「公立夜間中学、自主夜間中学についての歴史的流れや現状について知ることができた」、「普段では知ることのできない自主夜間中学の現状を聞いて勉強になった」、「今回の講演で自主夜間中学の存在意義への理解が深まった」、「学校らしくない学びの場、ごちゃ混ぜな感じが多様な学習者にはあっていると感じた」、「今後、社会全体としてこのような学びの場がどう確立されていくか大変気になった、日本語教育の観点からは、責任を持って日本語教育を担う主体がますます曖昧になり（企業か自治体か等）、整理が必要ではないかと改めて感じた」、「周囲に夜間中学のボランティアや日本語教育に実際に関わっている人が少ないため、貴重な意見交換の場になった」。以上、貴重なコメントが多数寄せられましたことに感謝申し上げます。

最後になりましたが、この場をお借りし、本支部活動に御参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

（報告者：関東支部委員 草木美智子・神山英子・稲田朋晃・梶原彩子）